

# 分科会「ろう者と戦争」

助言者：蔵本則彦氏／司会：佐藤 聖／記録：佐藤 聖

ヒロシマは、世界で初めて原爆が投下された場所であったからこそ、今まで休止していた「戦争」に関わる分科会を開催しました。開催する前に、被爆ろう者の証言ビデオの上映や広島平和記念資料館見学などが行われた。参加者の中には、戦争体験者が少ない為にその話があまり聞けませんでした。戦争体験者の数が減っており、高齢化が進んでおり、体験話を聞けることが大変困難になってきました。その状況を理解しなくてはならない時期が到来しております。これを自覚しなければなりません。「戦争を知らない」若い人達が質問したり、聞き取り調査に対する苦労談が披露されたりする実りのある分科会でした。将来を危惧するとともに課題を整理したいと思います。

## <参加状況>

この分科会の特長は、全国各地より多数の参加があり、戦後生まれの人達が圧倒的でした。広島原爆で直接被爆したろう者が参加していないことは大変残念でした。

まず皆さんで「戦争」について考えてもらいました。戦争起因、戦争責任、宇品港と江田島、教科書問題などでした。

## <戦時中の様子>

- ・耳が聞こえない為、爆撃音に気付かず、逃げ遅れた。
- ・飛行機が飛んでいる様子に見惚れていたが、「危ない！」と怒鳴られた。
- ・夜中に空襲警報に気付かず、家族に起こされて防空壕で一夜を過ごした。
- ・玉音放送に涙する人の姿を見て、後になって「終戦」を知った。
- ・徴兵検査で不適格とされたろう者は「非国民」と間違えられ、損や苦痛があった。
- ・逆に徴兵検査で「耳が聞こえない」の説明が判ってもらえず、侮辱・卑下等対応が酷かった。
- ・耳が聞こえないが、喋れることで「スパイ」と疑われてリンチに遭ってしまった。
- ・徴兵検査の意味が判らないまま、ろう者が戦争に行けないことを理解しなかった。
- ・徴兵検査の結果で「丁」となったろう者は、工場で働かされた。【参考】甲・乙・丙・丁
- ・情報が少なく限られていて「原爆投下」を終戦の数年後に知った。
- ・原爆の恐ろしさを理解するのに時間が大変かかった。
- ・広島聾学校の生徒は疎開していた。広島聾学校の校舎が傾く被害を受けた。

戦時中に暮らしていた様子、戦争激化で生活が苦しくなってきたこと、遠くから見た原爆が投下された様子を話してもらった。その内容は皆さんが戦争が怖くなる程、大変凄かった。

## <聞き取り調査>

広島市ろうあ協会として被爆ろう者の証言収録、手記とビデオの刊行の構想を持っているが、なかなか実現せず、今日に至っている。

被爆ろう者は嫌なことを思い出したくない理由から証言を拒否されて困っている。

当時、成人だった被爆ろう者のほとんどが既に故人となってしまう、記録をとりたくても、手遅れであり後悔している。

被爆体験者はカメラ全体を意識し、思考停止につながり、体全体で萎縮してしまい、いい映像

にならないことが多くて困っている。いい方法はないか？

度々出てくる【残念】の手話表現は「聴者と対等に扱われていない」の意味であることを知ってもらいたい。

#### <これからの課題>

写真等の寄贈を約束しているが、これらを保管するところがなくて困っている。これらを設置することが急務である。

手話による戦争体験の継承も同様である。これを風化させないようにその記録を保存しなくてはならない。

記録方法に工夫を加えたらどうか？絵を描いてもらうか、聞き取りながら描く。

後世に伝える為に色々と努力しなくてはならない。

戦争で被害を受けた聾学校は全部で16校。心当たりのある人は、聞き取り調査を始めたかどうか？全国的にその記録を集めるなどの取り組みが必要ではないでしょうか？

#### <問題提起>

戦争だけでなく、火事、地震、事故等が起こっても音声だけの連絡で、避難が遅れてしまう実態は今でも変わらない。

今でも、ろう者は自衛隊に入隊できないことは「職業選択の自由」を奪われている。日本の為に貢献できないもどかしさは何とかならないか？

鋭い視点をもつ若いろう者がいたことに驚いてしまいました。この分科会に参加された皆さんにとってはかなり収穫が多くあったのではないかと思います。何かの形で後世に遺そう！の気持ちで、取り組んで欲しいと思います。ろう者だからこそ持てる視点をもっと活用して下さい。